

荒木寛畝

《孔雀之図》

一幅

明治二十三年（一八九〇）
絹本着色
一四六・〇×二六〇・五
東京府 第二部第一類
妙技二等賞



第三回内国勸業博覧会で妙技二等賞を受賞し、宮内省によって買い上げられた本図は、荒木寛畝（一八三二—一九一五）の代表作と言うべき作品である。江戸に生まれた寛畝は、谷文晁系の荒木寛快に師事し、安政三年より土佐藩主山内容堂の知遇を得て活動した。寛畝の修学意欲は日本画にとどまらず、明治の初めには川上冬崖、国沢新九郎について洋画を学んだ。再び日本画に復帰してからは、写実的な花鳥画を数多く描いたことが知られるが、中でも孔雀は寛畝が特に好んだ題材であり、本図をはじめ一八八四年の第二回パリ府日本美術縦覧会、一九〇〇年のパリ万国博覧会、明治四十年の東京府勸業博覧会などにも孔雀図を出品している。

応挙の写実的な孔雀図を明らかに意識したものであるが、そこに洋画で学んだ陰影表現を付け加えることで、見る者を圧倒するような孔雀の量感と迫真性を表現することに成功している。

この頃には弟子を取るまでになつていた寛畝であるが、なかなか世に顧みられず生活は困窮していた。そうした状況下で本図の製作にかかる意気込みは並々ならぬものがあり、弟子の池上秀畝の回顧談によると、寛畝は博覧会に出品する本図ともう一点の「波に鴨図」の製作のために一切他の依頼を謝絶し、実に二百五十円もの費用をかけて描き上げたという（『美術之日本』第二巻四号、明治四十三年四月）。この会心の作が高い評価を受けて宮内省の買上げになったことは、寛畝に大きな自信を与えたとともに、画家としてその名を広く世に知らしめることとなった。



寛畝

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

内国勸業博覧会 ― 明治美術の幕開け

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 57

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年四月二十一日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections